



御即位次第文

和装本

73

277



御即位次第文
大嘗會附

73

277

1

所即位次才文

大嘗會附

所即位次才文

所即位と申は

天子受禪の後

三
年
閏
七月
廿
七日
門
跡
卷

森鴻次郎 氏尊贈

明治廿五年十一月廿七日

森鴻次郎 氏尊贈

森鴻次郎 氏尊贈

百官司に見受させ給たまふより、まの南

殿、飛鳥、帽、額をとれ、高、所、座を

き、親王代、擬侍従、少納言、云、おの座

をまう、白、此、座にた、太、宋、の、屏

風を、向、内、朝、親、王、禮、服、を、め、し、多、帳

の屋に出入し、外弁の公卿もおかしく、
礼服
まき帷子ばらをもり、庭上にて、
桐鳥日
月法像に神の幡、
美家鷹像をたふ、
杖の外祥をうへ、
近衛北次将軍
桂甲をか汁交り、
笠を帯し、
南階北
東、
西、
陣、
典儀、
礼服を着し、
賛者、
杖
牽く、
版位り、
侍、
大將代、
杖、
法、
むり

文武法百司各威儀、
物をもり、
庭
中、
北、
東、
西、
小、
列、
を、
天子、
禮、
服、
を、
著
侍、
あり、
まき、
高、
侍、
度、
小、
出、
侍、
河、
幸、
執、
醫、
者、
女、
孀、
を、
醫、
を、
も、
り、
て、
就、
顔、
を、
指、
目、
に、
車、
不、
視、
重、
法、
内、
侍、
二、
人、
女、
王、
典、
侍、
二、
人、
寮、
帳、
者、
最、
後、
下、
候、
に、
女、
王、
を、
さ、
ん、
ご、
侍、
儀、
を、
か、
く、
を、
と、
ま、
の、
女、
孀、
退、
事

宸儀しんぎ凡そしんをしん終ふしん群臣しん城のしんをしんおも
 へしんをしん休しん主しん殿しん寮しん火しん燭しんをしんましんふしんけしん固しん書しん
 寮しん香しん城しんをしん是しん位しんよしんはしんりしん也しん終しん多しんこしん心しんを
 天しん又しん告しんはしん宣しん命しん使しん版しんのしんつしんそしん制しんをしん宣しん
 せしんをしん群しん臣しん再しん拜しん舞しん踏しん寸しん兵しん庫しん寮しんのしん下しん司しん
 祗しん鼓しんをしんらしんちしん百しん回しん退しんくしん有しんせしんるしん誠しん又しん嚴しん重しん
 なしんふしん所しん事しんなりしん武しん官しんをしん万しん歳しん比しん歩しんししんを
 多しんのしんくしん美しん業しんをしん唱しんふしん擬しん侍しん従しんましんりしん禮しん
 木しんをしんりしんぬしんふしんよしんうしん城しん奏しんにしん将しん軍しん家しんをしん
 けしんししんめしんあしんししんのしん川しんをしんてしんよしんりしんめしんくしんをしん記しん帳しんひ
 いしんをしん方しんいしん年しんとしん祝しん納しんひしんうしんくしん

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

元文三年大嘗會再行之事
抑大嘗會
一紀代
一免
後土御門帝
東山院御宇

元文三年大嘗會再行之事

抑大嘗會おさけと申すは、その意をわくも

一紀代いちきだいの 皇位すうゐと志こころを

一免いちめんと申すは、その意をわくも

後土御門帝ごとのみかどより

二百餘ひゃくにじふり申絶まことたりしに、貞享まこと諸

ころおひ 東山院御宇ひがしやまのいんに光ひかりをた

城跡^{たふ}廢たふと發^{おこ}し^たた^まし^まし^ま今^{いま}
將元^{しげもと}文^{ふみ}之^の河^かの^とし^と一^{いつ}月^{げつ}ふ^とら^とせ^しふ^ふ
を^を勢^{せい}ふ^ふ以^もと^とと^とか^かし^し紀^き伊^い直^{ちく}なり^{なり}以^もと^と
秋^{あき}なる^{なり}も^も比^ひ下^げ定^{ぢやう}と^とく^く大^{おほ}内^{うち}子^こし^して^て波^{なみ}
良^{らう}加^か夫^ふの^の本^{もと}を^をや^や比^ひ飛^とれ^れ甲^かと^と物^{もの}り^り後^あ穂^ほ
の^の所^{ところ}を^を比^ひむ^む神^{かみ}祇^ぎ官^{くわん}下^げ郡^{ぐん}朝^{あさ}臣^{しん}是^{こゝ}
を^を河^かと^とむ^む古^こ款^{くわん}下^げ

嘉^か倉^{くら}山^{さん}の^のち^ち々^々賀^か保^ほ本^{もと}に^にう^う経^{けい}
し^しと^とき^きく^くか^かく^くぬ^ぬく^く志^しり^り此^{こゝ}つ^つる^る
密^{ひそ}に^にせ^せり^り
と^とと^と久^く人^{にん}事^じ實^{じつ}や^や治^ち不^ふ所^{ところ}代^{だい}子^こあ^あふ^ふこ
能^{のう}志^し賀^か郡^{ぐん}丹^に波^は素^そ田^{でん}郡^{ぐん}へ^へ拔^{はく}穂^ほを^を
使^し阿^あ摩^あ子^しお^おき^きよ^より^り荒^あ見^み河^かを^を半^{はん}ら^らへ^へ
都^と北^{きた}西^{せい}紙^し屋^や川^{がわ}り^り事^{こと}比^ひひ^ひふ^ふ御^ご

襖たもとと宮みやとより所ところ幣ぬいを捧たもぎ

天子てんし闕けつ白はく所ところ方かたを清きよめたまふところ也

由よし奉ほう幣ぬいは 伴い磐いわ石いし清きよ水みづがからも

下上かみの社やしろへ奉ほう幣ぬい帛ぬい仗たすけ有ありて紫むらさ宸しん

殿どの法しん所しよ前まへに皮かわ附つけのまのまの茅ちの菁やぶ液えき

したふ神かみ殿どのを二ふた所ところに宮みや祀まつりまふ

是こゝちも天あま注つ神かみ法しん文ぶん成なり悠ゆる紀き殿どのと

崇あかめ卑ひ地ちの神かみの文ぶんを主しゅ基き殿どのと中なかつ

なるところ也 内侍所うちしやくしよの所ところ前まへより

廻かへ立た殿どのを建たて 天てん子し此こゝ所ところ湯ゆをあ

きぬけ下したなる宜ぎ陽やう殿どの月つき華は門かどの

腋わきに柏かしわ屋やを構かまへ神かみ饗あひの膳ぜん屋やとあ

卜うら部べ忌い部べの宮みやを幣ぬい帛ぬい成なり奉ほう祝いのち詞ことばを

中ちゆう兵べい庫こ寮りやうに所ところ我われをあるま主しゅ殿どの寮りやう

た案火をててい主水司を水成持
内昭宮と神饌を調をて外百官

さるくはてまは山當日冬申徳
卯日乳李所巫猪女冬
所前下

す、安前所大后忌部法官人近傍
次將を剣室をほも車持所於て

菅甚蓋をほしてはる執宮内補員

所葉ごももて道道一きたてははる

次関白儀奉一せえはつてをふ小

忌上御ううむりに日世路のかはるを懸

心榮をててまふ庭上り卷向一月御

雲客列をせざし、天子渡所

く悠紀主基殿う入勢こもみえり

のり神饌を供し給ふとのや亥刻

夫亦よめより、とらつて演劇おとほころ^し神カミ
おと事えこふし納りたまふ後日のちのち悠紀ユキ主基ノミ
せり節分せぶん壽詞じゆし奏そう清暑せいじゆ堂どう神樂カミガクあま
とよのあかり豊明とよあかり節會せつかい南みなみ面めんよりさき言こと 所ところ産うぶ成なり
まろまろも、依よりあく、あま結むす所ところ遊あそび 所ところとと群ぐん片かた
み所ところ酒さけ錫しやくふ田た舞まひ風俗ふうじやくををかちく、かみ樂人ガクシ
かみ古樂コガク器きををここのここの人ひとをを持もててととは
かみくく祓舞ハヒマヒせりや、かみ誠マコトりうくうくたまき、かみ所ところ神事カミコト
むべむべなるふ、かみ所ところ裳も濯とろ河カハををななののき
かみき多おほく、かみ所ところ有ある、かみ北きた松まつ法ほう塔たつのの地ち
かみさうさうせせん、かみ所ところ依よ本ほん法ほうのの法ほうららななののまま
かみ代しろにか計かへくくああままきき奉ほうりりままののまま、



